

長崎大学経済学部講演会

『戦前期文献』と旧制高等商業学校」報告

経済学部研究委員長 森 保 洋

2014年7月12日、長崎大学経済学部新館101講義室において、『戦前期文献』と旧制高等商業学校」と題する講演会が開催されました。この講演会は、同年3月に『長崎大学経済学部東南アジア研究所所蔵 戦前期文献目録』が刊行されたことを記念して開催されたものです。

最初に、長崎大学経済学部の柴多一雄教授に『戦前期文献』と長崎高等商業学校」というテーマでご講演いただきました。柴多先生は今回の目録編集・刊行の指導にあられました。まず、明治38年（1905年）に設置された長崎高等商業学校の歴史、同校に設置されていた研究館の沿革概要および事業、「戦前期文献」整理の経緯、「戦前期文献」の内容、残された課題についてお話がありました。続いて、本学部東南アジア研究所は「戦前期文献」のほかに長崎高等商業学校の刊行資料（「長崎高等商業学校一覧」、夜学講習講義録等）、未刊行資料（公文書）、歴史資料、商品見本（標本）を所蔵していることが紹介され、本学部の歴史と伝統を伝えていくためにも、これらの貴重な史料を整理し残していくことが大切であると語られました。

次に、滋賀大学経済学部の阿部安成教授に「旧制高等商業学校の歴史資料（史料）と高商史を考える - 課題と可能性 - 」というテーマでご講演いただきました。阿部先生は、この10年、本学部が所蔵する高商関係の資料を調査され、論文を発表してこられました。また共同研究の代表者として高商史研究にたずさわっておられます。先生は最初に講演の目的は「高商史研究の活性化、およびそのための条件や環境の整備促進」であると示され、高商史の歴史、高商史をめぐる変化、高商史研究の展望について、高商系学部の状況等を紹介しながらお話いただきました。本学部においても引き続き、長崎高商関係史料の整理と公開を進めていくことが、高商を母体とする大学・学部の、また所蔵機関としての責務であると再認識することができました。なお、この講演の概要は「滋賀大学経済学部 Working Paper Series」No.214（2014年7月）として刊行されています。

最後に、九州大学大学院人文科学研究院・大学文書館の折田悦郎教授に「大学資料の整理・保存・活用について」と題してご講演いただきました。折田先生は大学文書館の専任教員で、同館の大学史資料室長を勤めておられます。九州大学大学文書館の概要、前史、活動（1．資料の収集・整理・保存・公開、2．調査・研究活動、3．教育活動、4．その他の活動）、

課題について紹介があり、大学アーカイブスの意義と役割、大学史料の収集・保存のあり方等について、有意義なお話を伺うことができました。また、九州大学の創立記念日、シンボルマーク、誘致・設置運動について、さらに九州帝国大学と長崎高等商業学校の関係についても興味深いお話がありました。

当日は、本学教職員ほか、学外研究者、卒業生、一般の方にもご参加いただき、盛況のうちに終了しました。講師の先生、参加して下さった皆様、関係各位にお礼申し上げます。